

会員間でノウハウ共有

ダク異形管工業会 2工場を視察

日本ダクタイル異形管工業会は11月12日に令和元年度研修会・上期報告会を開き、前澤工業埼玉製造所と、遠山鐵工所久喜工場をそれぞれ視察した。会員企業から約50人が参加した。

前澤工業埼玉製造所は同社唯一のバルブ製造拠点で、各種水道用バルブや消火栓、鑄鉄製ゲート等の生産から配送までを一手に担う。今回は鑄造・組立・塗装などバルブ類の製造工程を見学。中でも溶かした鑄鉄をダクタイル処理(球状化処理)

のため取鍋へ出湯する工程に参加者の強い関心が集まった。

終了後の質疑では、職員のモチベーション向上

のための取組みについて質問が挙がった。同社の手塚正三所長は、若手を中心に職場の課題を共有し合う機会を定期的に設

け、品質や技術の向上につなげていることを紹介した。

遠山鐵工所久喜工場は、T字管や両フランジ管、曲管などのダクタイル鑄鉄異形管を中心に扱う同社最大の製造拠点。異形管の製造工程のうち、アルカリフェノール樹脂を用いた曲管のかき

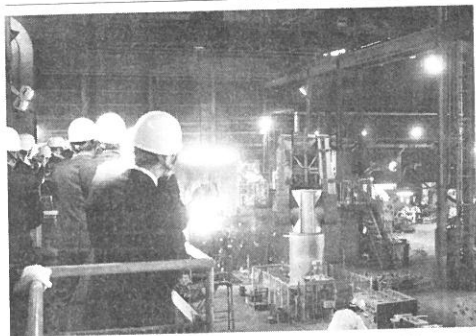
型造型や機械加工、粉体塗装などの現場を見学したほか、夏季の熱中症対策として整備したエアコン完備の休憩所などについても説明を受けた。

見学前、遠山善彦社長は「工業会には人材育成などでご支援をいただいている。(今後も)同業のよしみで」指導を賜れ

ると幸い」などと言いつつした。

◇ ◇

研修後には上期報告会を開き、役員異動等の会務や各委員会の活動状況を共有した。このうち技術委員会では、今年度の研修会を2月21日に大阪で、2月28日に東京でそれぞれ開くこととした。



溶かした鑄鉄の出湯(前澤工業)



曲管のかき型造型(遠山鐵工所)

2019(令和元)年 12月2日付発行

日本水道新聞